



平成 22 年 5 月 11 日

各 位

会 社 名 アールビバン株 式 会 社
 代表者名 代表取締役社長 野澤克巳
 (コード番号 7523 JASDAQ)
 問合せ先 経営企画室マネージャー 中島章裕
 電話番号 03-5159-7177

特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は下記のとおり特別損失を計上することになりましたので、その概要をお知らせするとともに、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 22 年 2 月 5 日に公表いたしました業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生及び内容

減損損失の計上

当期の連結決算において連結子会社タラサスパアンドリゾート株式会社のホテル事業の営業損益が連続赤字となったため、ホテル設備等について減損損失 711 百万円を特別損失に計上する見込みであります。

貸倒引当金繰入額の計上

当期の個別決算において連結子会社タラサスパアンドリゾート株式会社の財政状態が悪化したことにより、関係会社貸付金に対して貸倒引当金繰入額 720 百万円を特別損失に計上する見込みであります。

投資有価証券評価損の計上

当期の個別及び連結決算において保有する株式のうち、時価が取得価額に比べ 30%~50%程度下落したもののついて回復可能性等を考慮して減損処理を行い投資有価証券評価損 78 百万円を特別損失に計上する見込みであります。

2. 平成 22 年 3 月期通期業績予想数値の修正 (平成 21 年 4 月 1 日~平成 22 年 3 月 31 日)

(1) 連結業績予想数値の修正

(単位: 百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 予 想 (A)	6,350	810	770	410	29.83
今 回 修 正 (B)	6,500	490	430	△390	△28.41
増 減 額 (B-A)	150	△320	△340	△800	—
増 減 率	2.4%	△39.5%	△44.2%	—	—
(参考)前期実績(平成 21 年 3 月期)	6,888	537	521	24	1.76

(2) 個別業績予想数値の修正

(単位: 百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 予 想 (A)	2,070	50	1,110	880	64.02
今 回 修 正 (B)	2,090	90	1,160	320	23.31
増 減 額 (B-A)	20	40	50	△560	—
増 減 率	1.0%	80.0%	4.5%	△63.6%	—
(参考)前期実績(平成 21 年 3 月期)	2,280	△73	3	△509	△37.05

3. 修正の理由

(1) 連結業績

売上高につきましては、当初予定を上回る実績で推移しており、前回予想を 150 百万円下回る 6,500 百万となる見込みであります。営業利益につきましては、美術品販売事業の棚卸資産を保守的に評価したことによる評価替により売上原価が 390 万円上昇し、前回予想を 320 百万円下回る 490 百万となる見込みであります。

経常利益につきましては、営業利益が減少したこと等により、前回予想を 340 百万円下回る 430 百万となる見込みであります。

当期純利益につきましては、リゾート事業においてホテル設備等について減損損失 711 百万円及び投資有価証券評価損 78 百万円を特別損失に計上したことにより前回予想を 800 百万円下回る△ 390 百万となる見込みであります。

(2) 個別業績

営業利益につきましては、広告宣伝費・会場費等のコスト削減により、前回予想を 40 百万円上回る 90 百万となる見込みであります。経常利益につきましては、営業利益が増加したこと等により、前回予想を 50 百万円上回る 1,160 百万となる見込みであります。

当期純利益につきましては、関係会社貸付金に対して貸倒引当金繰入額 720 百万円及び投資有価証券評価損 78 百万円を特別損失に計上したことにより前回予想を 560 百万円下回る 320 百万となる見込みであります。

※上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、状況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

以上